

### 第3学年 道徳学習指導案

日 時 令和4年11月8日(火)5校時

場 所 3年2組教室

生 徒 3年2組 男14名 女13名 計27名

授業者 苅宿 文子

1 主題名 C－(16) 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度

2 教材名 「根反の鹿踊りとわたし」

3 単元設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本時の授業は、新学習指導要領の内容項目C－(16)「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」について学習するものである。地域の伝統を守り継承していくことは大変意義深いことであるが、昨今、郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっているように感じられる。郷土に育まれている伝統や文化の発展のための取組を知り、理解を深めることで、そこに住む誇りや地域社会の一員としての自覚が芽生えたと考える。また、郷土を愛し、大切にすることは、長年にわたり郷土を作り上げてきた地域の方々の努力に思いを寄せ、感謝の心を持つとともに、今後の人々のために発展させて継承していくことである。

本学習を通して、郷土を愛し、地域社会の一員としての自覚を持つこと、地域のために尽くしてきた方々に尊敬と感謝の心を深めるとともに、今後、より一層郷土を愛する心と、発展のために自分ができることは何かを考えさせることが大切である。

(2) 生徒について

今年度は、「小鳥谷まつり」・「一戸まつり」が3年ぶりに開催され、郷土芸能の練習に参加している生徒もいる。久しぶりに伝統行事に参加することで、地域の方々とも触れ合う機会にも恵まれた。しかし、伝統行事が地域の多くの人たちによって大切にされ、受け継がれているという、伝統行事の素晴らしさを実感するには至っていない。本教材の伝統芸能「根反鹿踊り」への理解とともに、伝統芸能を支える主人公の苦しみ・悩みや発表後の達成感に共感させるとともに、伝統を長年守り、継承してきた方々がどのような気持ちでいるのかに思いを寄せ、地域社会の一員として地域を大切にすることはどのようなことかを考え、今後も地域に関わろうとする意識を持つきっかけとしたい。

(3) 教材について

本教材は地元一戸町の伝統芸能である「根反鹿踊り」が題材の資料である。主人公は幼い時から「根反鹿踊り」の一員として取り組んできたが、支える人数の少なさや踊りの難しさで時々投げ出したい気持ちになる。そんな中、文化祭の特別企画で鹿踊りを披露することになったが、吹奏楽部と生徒会執行部の両立に多くの悩みを抱えてしまう。厳しい状況の中でも練習を続け、文化祭当日はたくさんの賞賛をもらうことができたという話である。郷土に深い愛着や誇りを持つとともに、大切にしたいという気持ちを実感できる資料である。

#### (4) 指導に当たって

事前に、本教材を読んで内容を把握させてから授業に臨ませる。導入場面で、「根反鹿踊り」の動画を紹介し、共通理解を図ってから資料に入っていきたい。やるべきことが多く、踊りを後輩に任せようとした主人公はどんな気持ちになったのか考えさせ、課題意識を高めていきたい。ここでは、これまでの主人の努力も丁寧に取り上げ、十分主人公に共感させたい。

後輩の言葉から、自分の踊りで伝統を引き継ごうと決意する主人公。文化祭の演技後にたくさんの賞賛をもらった主人公。これらのことを通して、地域社会の一員として、郷土との関わりを大切にしようとすることを生徒の言葉で表現させたい。

### 4 本時の指導

#### (1) 目標

郷土の伝統芸能である「根反鹿踊り」への理解を深めるとともに、地域社会の一員として、郷土との関わりを大切にしようとする意欲を育てる。

#### (2) 校内研究との関連

##### 【視点1】自分の考えを表現する場面の工夫

展開の中で、課題に対し自分の考えをまとめる場面を設定する。課題③の場面でロイロノートの共有ノートを活用し、自分の考えをグループ内で共有する。それをもとにグループ内での意見交流に繋げ、自分の考えを相手に伝える場とする。自分では気が付かなかった考え方に気付いたり、お互いの考えを深めたりする活動の中で学習課題に迫れるようにしたい。

##### 【視点2】自ら課題に粘り強く取り組む場面の工夫

終末では、学習したことを振り返る場面を設定する。主人公の葛藤や伝統芸能を支える地域の人たちなど、様々な視点から地域の伝統芸能について考えたことを振り返りながら、本時の授業で感じたことについて自分の言葉でワークシートに記入させる。記入したものを写真で取り、提出箱に提出させる。提出された考えを共有しながら、本時のまとめとしたい。

5 本時の展開

	学習活動	発問 予想される生徒の反応 等	教師の指導の手立て
導入 5分	1 「根反の鹿踊り」映像を見る。	・「根反の鹿踊り」がどのような踊りなのかを動画で確認する。	・動画を視聴する。
展開	<b>学習課題 文化祭での経験から「わたし」が気付いたことはどんなことだろう。</b>		
	2 あらすじ確認	・主人公と「根反の鹿踊り」の関係について押さえる。	・ふるさと一戸や鹿踊りに対する想いについてふれる。
	3 課題①の追求	<b>課題① 後輩にまかせようとする「わたし」はどんな気持ちだろうか。</b>	
	○全体で意見交流する。	・辛くなって楽しさを忘れてしまった。 ・代わりは他にもいると思ってしまった。	・投げ出したくなった気持ちについて共感的に受け止めさせたい。
	4 課題②の追求	<b>課題②「自分がこの伝統を引き継がず、誰がやるのか。」という思いになったのはなぜか。</b>	
	○全体で意見交流する。	・後輩が自分を頼りにしているから。 ・他の人には任せられない。 ・鹿踊りが好きだから。	・好きで続けてきた「根反の鹿踊り」に使命感を感じている主人公の姿を捉えさせたい。
35分	5 課題③「中心発問」の追求	<b>課題③ なぜ、会長の言葉に思わず、「胸が熱くなった」のだろう。</b>	
	○グループ内で交流し考えをまとめる。	・踊りを支える地域の人や会長に喜んでもらえて嬉しかった。 ・見てくれた人に、「根反の鹿踊り」の伝統を伝えることができたから。 ・鹿踊りが自分にとって大切なものだと気が付いた。	・関わる人たちがどんな思いで続けてきたかに気付かせたい。 <b>【視点1】</b> ○ロイロノート内で自分の考えをグループで交流し、まとめる。 ○提出箱に提出させる。
	6 課題④の追求	<b>課題④「わたし」はどんなことに気付くことができたか。</b>	
	○全体で意見交流する。	・根反の鹿踊りが地域にとっても自分にとっても大切なものだと気付くことができた。 ・これからも根反の鹿踊りを守っていきたいという気持ちに気付くことができた。	
終末 10分	7 振り返り ○今日の学習を振り返り、感じたことや考えたことを書く。	・「わたし」は根反の鹿踊りが地域にとっても自分にとっても大切なものだと気が付くことができたのではないか。一戸の良いところをもっと伝えられるようにしたい。 ・「根反の鹿踊り」のように繋いでいかななくなってしまう伝統を途切れさせないように自分からお祭りに参加していきたい。	・県指定無形文化財について触れる。なくなっていく踊りがあることも伝える。 <b>【視点2】</b> ○自分の考えを学習シートに書き、ロイロノートで写真をとって提出させる。
	8 まとめ ○みんなの感想を紹介し、まとめとする。		・提出された感想を表示する。

「根反の鹿踊りとわたし」

文化祭での経験から「わたし」が気付いたことはどんなことだろう。

「わたし」にとって・・・

**根反** 自分の居場所

**鹿踊り** 好きだ

- ・ 見ているとおもしろい
- ・ 踊っていて楽しい

**文化祭**

- ・ 吹奏楽部
- ・ 生徒会
- ・ 鹿踊り

「先輩に任せよう」

「伝統を引き継がず、誰がやるのか」

- ・ 代わりは他にもいる。
- ・ 辛くなって楽しさを忘れてしまった。

- ・ 頼りにしている。
- ・ 他の人に任せられない。
- ・ やっぱ鹿踊りが好きだから。



**文化祭本番**

**夢中** になって踊った

|| びつくりするような拍手・たくさんの賞賛

心を受け継いでくれてうれしい

これこそが地域の伝統

「胸が熱くなった」

- ・ 踊りを支える人たちや会長に喜んでもらえて感動した。
- ・ 見ている人に伝統を伝えられた。
- ・ 鹿踊りが自分にとっても大切なものと気が付いた。

文化祭での経験から「わたし」が気付いたことはどんなことだろう。

- ・ 鹿踊りが地域・自分にとっても大切なもの。
- ・ これからも鹿踊りを守っていききたいという気持ち。

「根反の鹿踊り」  
県指定無形文化財

県指定無形文化財  
全伝統芸能 18 団体  
県内の鹿踊り 118 団体  
うち 24 団体＝廃絶・中断